ISHIKAWA NON－PROFIT ORGANIZATION NEWS
【秋季号】

いしかわ NPOニュース

56
2014 Autumn

特集 実践している人から聞いた
イベントの集客を成功させるためにできる７つのこと

●教えて! i-ねっとのあおみさん
◆上手く会議を進めるコツ

●いしかわのNPO
◆大野こまちなみ研究所
◆NPO法人クラブぽっと

●インフォメーション
◆助成金・表彰情報

法務局への登記を忘れていませんか?

NPO法人を運営していく上で欠かすことのできないのが、法務局で行う登記です。すべての法人は登記されている事項について変更があった場合、事務所を管轄する法務局へ変更登記の申請をしなければなりません。

登記手続きの中で比較的頻度が高い**「資産の総額の変更」**と**「役員の変更」**についても、その存在を知らなかったという相談がNPO法人から寄せられています。「ここ最近、登記の手続きをした覚えがない」という法人は注意が必要です。

① 資産の総額の変更登記

NPO法人は、資産の総額を登記する必要があります。正味財産の合計額が前年度と同じ場合を除き、**毎事業年度終了後2か月以内に手続きが必要です。**

②役員の変更登記

代表権をもった理事が交代した場合や氏名・住所に変更があった場合は、その都度、変更登記が必要です。また**代表権を持った理事に変更がない場合であっても2年に１度は再任の手続きが必要です。**

○法務省のホームページから登記を申請するときの様式や記入例をダウンロードすることができます。記入上の注意等も詳しく書かれていますので、まずはこちらをご覧ください。

【法務省ホームページ　商業・法人登記申請の様式・記入例】
http://www.moj.go.jp/ONLINE/COMMERCE/11-1.html

石川県 / URL http://www.ishikawa-npo.jp

あいむ

「あいむ」は石川県NPO活動支援センターの愛称です。「あいむ」にちなみ、「I」と「m」という文字と、石川県の「石」の文字が、拳をあげて自らの意思を持って行動する市民をイメージしています。

特集

実践している人から聞いたイベントの集客を成功させるために できる7つのこと

NPO・ボランティア団体にとってイベントは、日ごろの活動をアピールする場であり、活動に賛同してくれる人を増やすための貴重な機会です。しかし、時間をかけて企画を練り、お金をかけて講師を呼んだとしても「イベントの参加人数が少ない」や「いつも同じメンバーばかり」といった状況が続いてしまうと、活動が広がらずメンバーのやる気も下がってしまいます。
そこで今回の特集ではNPO・ボランティア団体の方々から教えてもらった**“イベントの集客を成功させるためのコツ”**を紹介します。

① タイトルを工夫する

イベントの内容がどれだけ素晴らしいものであっても、**最初に目に触れるタイトルに興味を持ってもらえなければ参加者は増えません。**そのイベントに参加すると、どのようなメリットがあるのか、何が得られるのかを端的に表現したタイトルとなるよう工夫してみましょう。

〈実践例〉

効果を入れる：『子どもとの接し方が変わるコーチング入門』
『会議での発言がどんどん増えるファシリテーション術』
ターゲットを入れる：『〈初心者限定〉初めての Facebook 講座』『シニアのための NPO 入門講座』
疑問文を入れる：『知っていますか？○○の秘密』

② 別の団体と一緒に開催する

イベントに参加するメンバーがいつも同じで、なかなか人数が増えない場合には、外部の団体と組んでイベントを一緒に開催するというのも有効な手段です。**イベントのターゲット層（学生、女性、起業家、シニア等）が中心メンバーになって活動している団体や、別の地域で同じようなイベントを行っている団体と協力する**ことで、今まで情報を伝えることができなかった人々に対して効果的に呼びかけることができます。

〈実践例〉

女性メンバーの多い子育て支援団体が「イクメン（積極的に子育てをする男性の略称）」をテーマにイベントを行う際、20 ～ 30 代の男性に発信力のある地域づくり団体と一緒に広報を行い、100 人近くが参加しました。

③ チラシに情報を詰め込みすぎない

チラシは集客の上で大切なツールの１つですが、必要な情報を整理せず、１枚のチラシに団体の理念や活動紹介といった内容を詰め込み過ぎると、何を伝えたいのかがわからなくなってしまい、チラシに目を通してもらったとしても集客につながらない場合があります。理念や団体紹介はできるだけコンパクトにまとめ、**イベントのアピールポイントの紹介を中心に紙面を作ると効果的**です。

〈実践例〉

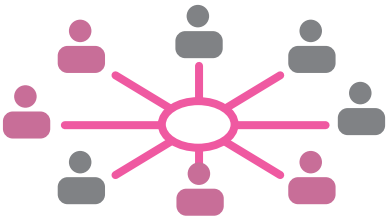
イベントチラシの中に団体設立の経緯や過去の活動、会員募集の案内も載せていたが、思い切って情報を絞り、余白を活かしながら、イベントのセールスポイントである「講師の紹介」や「収益を全額寄付すること」を目立たせました。

④ SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)を活用する

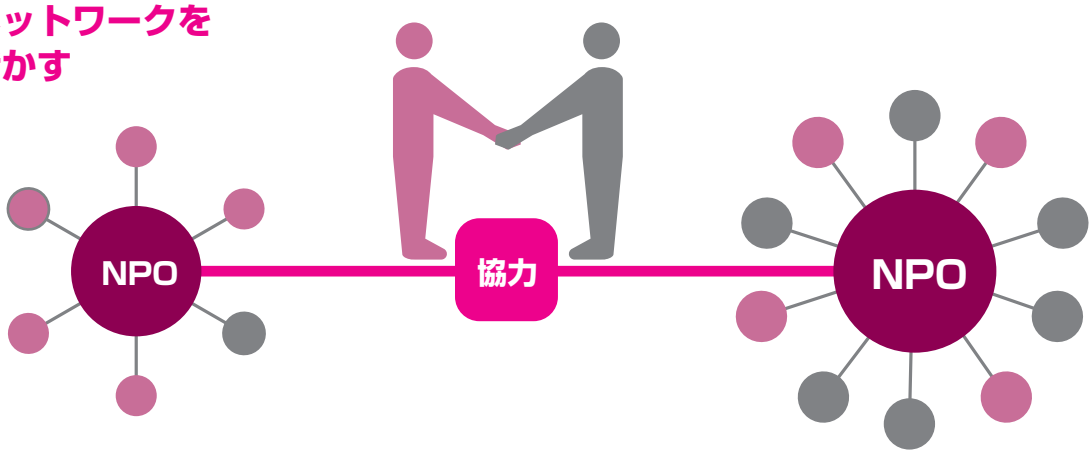
イベントへの参加を呼びかけるときに SNS を使うことも有効です。例えば主な SNS の１つである Facebook には「イベント機能」があり、開催情報の告知、参加者の招待、出欠確認、イベント掲示板といった機能を無料で利用することが出来るため、チラシの印刷費といった**コストを全くかけずに集客することも可能**です。またイベントへの参加を表明すると、Facebook 上の友人にイベントの日時、場所、内容等の情報が拡散するので、**今まで自分達の団体と関係のなかった人に対しても周知することができます**。その他にも、Facebook 上でイベントへの参加を表明した人の名前を確認することが出来るため「迷っていたけれど A さんが参加するなら、私も申し込んでみよう」といったような動機で参加するケースもあります。

〈実践例〉

毎月１回、イベントを開催しているが、集客は Facebook やメールマガジンで行っており、チラシ等の印刷物は一切作っていません。



それぞれのネットワークを活かす



⑤ 個別に参加を呼びかける

イベントへの参加を迷っている人や関心が薄い人に参加を促すためには、チラシを設置したり、SNSを使って一斉に呼びかけるだけではなく、**主催者が直接会いに行ってチラシを手渡したり、メールなどを送るなど個別に参加を呼びかける**ことが大切です。過去のイベントに参加してくれた人や別のイベントで知り合いになった人などに対して連絡を取ってみましょう。

〈実践例〉

参加者の募集を始める際は、まずは仲のよい友人や興味を持ってくれそうな人を誘うようにしています。また締め切り間近になっても常連の方から申込がない場合には、個人名を入れてリマインドメールを送っています。

⑥ プレスリリースを発行する

プレスリリースは、世の中に広く知らせたい**「ニュース」を持つ団体から、**新聞社やテレビ局などの**報道機関に渡す資料**のことです。プレスリリースすることで新聞やテレビに取り上げてもらえることもあるので、より多くの人にイベントの存在を知らせることができます。ただし NPO・ボランティア団体にとって発信したい情報であっても、報道機関が社会的に価値のある情報だと思わなければニュースになりません。**独りよがりの情報発信にならない**ように外部の人にもチェックしてもらい、世の中の多くの人にとって価値のある情報だということが伝わるプレスリリースを作成しましょう。

〈実践例〉

プレスリリースを作成するときには、A4 サイズの紙 1 枚に収まるように情報を絞っています。また「社会的に価値のある情報を発信する」という意識を持ち、初めての試みである「新規性」や開催日を防災とボランティアの日に合わせるなど「タイミング」を考慮しています。

⑦ 関係を継続する

自分たちの団体のイベントに興味をもって参加してくれた人は、その団体のファンになってくれる可能性があります。イベント終了後に何の行動もしなければ、ほとんどの参加者とは一度きりの関係で終わってしまいますので、次のイベントの案内を送付したり、団体の打ち合わせに誘うなど関係を続けるための取り組みをしましょう。

〈実践例〉

イベントの最後に必ず次回の開催日時を告知することで、できるだけたくさんのリピーターを獲得できるようにしています。またイベント後に参加者とスタッフを交えた懇親会を開き、関心のありそうな人にはその場で入会の案内をしています。

「教えて! i-ねっとのあおみさん」

非営利団体のためのQ&A シリーズ⑰　いしかわ市民活動ネットワーキングセンター　副理事長／事務局長　青海 康男

会議の中に、一人でずっと発言して周囲をうんざりさせる人や批判的なことばかり言って雰囲気を悪くする人がいます。そんな困った人が参加することで議題について十分に話し合うことができなかったり、他のメンバーの不満がたまっています。**どうすれば、話の長い人や批判的な人に振り回されずに上手く会議を進めることができますか。**

たしかに**話の長い人**がいると困りますよね。同じ話を繰り返されたり、話をあっちこっちに飛躍されたりすると、周囲の人たちは話を理解しようとする気持ちがなくなってしまい会議の緊張感がなくなってしまいます。そうさせないためには**「相手の話を要約する」「相手の意見を認める」「他の人に話を振る」**ことが大切です。

会議の進行役は「この人の話は長いな･･･」と感じたら、「すいません、今までのお話を少し整理させていただいてよろしいですか？」と尋ねた上で、**相手の話を要約してください。**要約した内容に誤りがなければ、「非常に大切な視点ですね」「その考え方は重要ですね」というように**相手の意見を認めるメッセージを送ってください。**話の長い人が喋り続ける理由の一つに「自分の意見を認めて欲しい」という欲求があります。相手の意見を認め、安心してもらうことで感情を傷つけることなく発言を止めることができます。その上で「では、○○さんはどう思いますか？」と、**他の人に話を振ります。**そうすれば話の長い人の意見を尊重しながら会議を進めることができます。その他にも会議を始める前に「１回の発言は３分以内」といったルールを**事前に紙に書いて張っておく**ということも効果的です。

次に**批判的な人**についてです。批判的な発言が多い会議では周囲が萎縮してしまい新しいアイディアが生まれにくくなってしまいます。批判的な意見を言う人に対しては、話の長い人と同じように**相手の意見を認めるメッセージを送ってください。**批判している本人は議論を深めようと善意で言っている場合や自身の洞察力を認めて欲しいという場合があるので、その気持ちを承認することで反発を招かずに対応できます。その上で**建設的な意見を出してもらうよう**に伝えてください。その際「建設的な意見を出してください」とストレートに言ってしまうと“あなたの発言は建設的ではない”という否定的なメッセージに受け取られる危険性があります。例えば「どうすれば良くなると思いますか？」といったように**質問する形で代案を求める**ことで円滑に会議を進めることが出来ます。

また**ホワイトボードや議事録などに批判的な人の発言の記録を残す**ことも有効です。思いつきで無責任な批判をしていた人は、自身の稚拙な発言を客観的に振り返ることになるので恥ずかしい思いをします。その後は自分の発言に責任を持つようになるので、建設的でない批判は少しずつ減っていくことになります。

大野こまちなみ研究所

事務局長　小林史彦
TEL：090-2099-5512
URL　http://komachilab.exblog.jp/（ブログ）
　　https://www.facebook.com/komachinami（フェイスブック）
E-mail　komachinami@yahoo.co.jp

まち固有のヒト・モノ・コトを生かす協働プラットフォームの運営

設立のきっかけはイベントの企画・運営

町家と醤油蔵が軒を連ねる金沢市大野町では、平成以降、固有の資産を生かした魅力発信イベント「大野こまちなみフェスタ」が開催されてきていました。その担い手の世代交代時期に差し掛かっていたこともあり、フェスタの企画を通じて繋がりのできた町内外のメンバーが中心となって**２０１３年**4月に「大野こまちなみ研究所」を設立しました。

町内外の多様な主体の協働により固有の資産を生かす

「そこにあるヒト・モノ・コトを生かしながら、まちの楽しみ方を研究しよう」をモットーに、町内外の多様な主体との協働により、まちの魅力発信イベントの企画・運営などを行っています。

メンバー構成には3つの特徴があります。まず、20 ～ 40代というメンバーの若さ、醤油蔵元やクラフト作家、デザイナー、染色職人、写真家、農家、大学教員など、職業構成の多彩さ、そして町外在住者もメンバーになっていることです。若手、町外メンバーの新鮮な眼差しを通じてまちの宝物に新たな光をあて、多彩な特技を活かしてまちを楽しむ「コト」を起こす、というのが研究所の活動スタイルです。定常的に活動する町内中心のコアメンバーと、プロジェクト毎に連携する多彩なパートナーから成るしなやかな組織構成も特徴です。町内メンバーは祭礼運営や地域団体での活動を通じて町内で縦横の繋がりを持ち、地域の各種団体とスムーズな連携を図れます。研究所は町内外の多様な主体による協働のプラットフォームとなっています。

連鎖的なイベント運営を通じたネットワークづくりから仕組みづくりへ

「こまちなみなーと」、「灯台集合！こまちなみなーとmini」、「大野の節句～ひなあそび～」の3つの魅力発信イベントを開催し、まちの魅力発信を通年で行ってきました。また、イベント開催を通じてご縁の生まれた空き町家を借り受け、研究所の活動拠点「築百年の町家」として活用しています。そこでの定期的なものづくりワークショップ「町家オープン工房カフェ」や、まちぐるみで朝顔を育てる「明後日朝顔プロジェクト金沢in大野」を通じ、研究所の活動を可視化し、活動の輪を広げるとともに、上記の魅力発信イベントと連動したプログラム設計により連鎖的に「コト」を起こし、一過性のイベントに留まらないまちづくりのストーリーづくりを心掛けています。

大野町では高齢化や事業所の後継者難などによる町家や醤油蔵の遊休化が進みつつあります。研究所ではこうした課題解決の機運づくりに取り組んでいます。継続的に「コト」を起こすことにより町内外にまちの潜在的なポテンシャルを示し、イベント時に留まらない恒常的な資産活用の仕組みを構築することが私たちの目標です。関心のある方は、研究所の活動に是非ご参加ください。

vol.40

NPO法人クラブぽっと

理事長　佐川　哲也

活動のきっかけ、目的

NPO法人クラブぽっとは、平成21年3月29日に「杜の里スポーツクラブ（任意団体）」として設立されました。地域住民の健康づくりや青少年の健全育成の場としてはもちろん、杜の里地区に多く住む大学生と地域住民の交流や大学生が地域で学ぶきっかけとして、地域住民、大学生などが集まり設立準備委員会を経て設立されました。平成25年6月よりNPO法人化に伴い名称も「クラブぽっと」に変更し活動をしています。

クラブぽっとの理念は以下の4つです。

1. 誰もが集い、育てるクラブ
2. 互いに学び、成長できるクラブ
3. 未来を見つめ、地域を拓くクラブ
4. みんなの想いが実現するクラブ

この4つの理念を達成するために、スタッフで力を合わせながら日々活動しています。

活動内容

クラブぽっとでは、幼児・子ども向けの運動教室や高齢者向けの健康づくり事業、また学習支援の場としての寺子屋活動、自然体験や様々な体験ができるプログラムなど多くの自主事業を実施しています。詳細はHP（http://morispo.sa-suke.com/）をご覧ください。

クラブの最大の特徴は、多くの大学生が教室のスタッフやイベントの企画スタッフ、またボランティアスタッフとして関わっていることです。大学生は自分達の経験したいこと、学びたいことを実践するために関わっておりクラブではインターンシップとして受け入れています。クラブは、学べる環境を与えるだけではなく、実際の企画の仕方や指導方法などを勉強会やミーティングなどを通して学べる仕組みを作っています。例えば、経験が豊富になった学生は教室を1つ任されたり、イベント運営を任されたりすることがあります。また、学生と地域とのつながりができ、地域に貢献できるようにクラブとして「地域応援部門」を立ち上げ、学生がコーディネーターとして動きながら地域の様々な活動に参加者としてスタッフとして参加させてもらっています。活動の様子は、（facebookhttps://www.facebook.com/clubpot）をご覧ください。

今後の展望

クラブぽっとでは、現在の事業に加え、今後は地域のNPOとして地域課題の解決につながる事業を地域の団体と連携しながら取り組んでいきます。具体的には、地域の高齢者支援として外出支援の事業を地域団体と連携しながら実施し始めています。今後も、スポーツ・運動だけではなく、地域の団体としての特性を活かし、またクラブの専門性を活かしながら、地域づくりにも関わっていきたいと考えています。

みなさんへのメッセージ

クラブぽっとは、学生に関わらず誰でも気軽に参加したり、スタッフとして関わったりできるクラブです。みんなで力を合わせて成し遂げていくことができます。興味がある方はぜひ一緒に活動しましょう！

■データ■

特定非営利活動法人クラブぽっと

〒920-0941　石川県金沢市旭町2丁目19-33　ブライト・イン押田1階
TEL&FAX：076-223-2360
HP：http://morispo.sa-suke.com/
facebook：https://www.facebook.com/clubpot
E-mail：mori-spo@hotmail.co.jp

県からのお知らせ

INFORMATION

助成金・表彰情報

北陸ろうきん NPO・ボランティア団体助成金制度 2014

●目的
福祉の向上や自然環境の保全･回復、消費者保護をはじめとした様々な課題の克服に向けて、地域に根差し熱心に取り組んでいるNPO･ボランティア団体等との協働により、誰もが喜びを持って共生できる、暮らしやすい地域づくりを応援する。

●助成対象団体
NPO法人、任意団体(NPO団体、ボランティア団体等)、その他法人(社会福祉法人等)で、次のすべてに該当することが必要。
(1) 北陸3県内に主たる事務所を有していること。
(2) 会則･規約または定款があり、活動計算書または決算報告書の作成がされていること。
(3) 2012年9月1日以前より活動実績があること。
(4) 当金庫に助成金受取口座を開設、もしくは開設できること。
(5) 会費･事業収入などの自己財源で運営していること。
(6) 活動(事業)内容が顕著であり、今後も継続されることが見込める団体であること。

●助成金額
1団体への助成金額は30万円を上限とする。

●応募内容と制限
応募の申請は、1団体1項目(事業･運営費･備品購入など)に限る。
但し、2011,2012,2013年度の交付団体は申請できない。
趣味的活動の延長と思われる団体は選考時に助成対象外となる場合がある。

●応募締切
平成26年10月31日(金)

【お申込み・お問い合わせ】
北陸労働金庫　経営企画部
〒920-8552　金沢市芳斉 2-15-18
TEL:076-231-2165　FAX:076-222-7048
E-mail: s-kikaku@hokuriku.rokin.or.jp
☆詳細はこちら⇒http://hokuriku.rokin.or.jp/csr/npo_subsidy.html

ボランティアに関する講習会等助成事業

●助成対象事業
1.県内のボランティアグループ等が主催するもの。
2.ボランティア精神の普及や団体等におけるボランティア活動の充実、発展に寄与するもの。
3.10人以上の参加者が見込まれるもの。
4.参加者から参加費を徴収しないもの。徴収するものであっても、その金額が必要最小限と認められるもの。
5.政治活動や宗教活動を目的としないもの。
6.不当な参加資格を設けていないもの。
7.この助成事業について他の団体等からの助成を受けていないもの。

●助成対象経費
講習会等において指導等を行う外部講師の謝金及び交通費とし、助成金の総額は 5 万円以内(年度内1回限り)

【お問い合わせ】
(公財) 石川県県民ボランティアセンター
〒920-0961　金沢市香林坊 2 丁目 4 番 30 号　香林坊ラモーダ　7 階
TEL:076-223-9558　FAX:076-223-9559
☆詳細はこちら⇒　http://www.ishikawa-npo.jp/volunteer/koushu.htm

パネル展示コーナーで日ごろの活動をアピールしてみませんか？

石川県NPO活動支援センター あいむ内に、ボランティア活動を行っているみなさんの活動内容をパネルやポスター、写真などで紹介する『パネル展示コーナー』を設けました。

【利用できる方】 県内で活躍されているNPO･ボランティア団体
【展 示 期 間】 原則 2 週間 (各団体で展示作業を行ってください。)
【展 示 内 容】 NPO･ボランティア活動の広報及び周知に関する内容のもの
【パネルの利用】 あいむにあるパネルを最大 5 枚まで利用することができます。
☆パネルの大きさ ： A1サイズ 594mm×841mm

【お問い合わせ】
石川県 NPO 活動支援センター　あいむ
〒920-0961　金沢市香林坊 2 丁目 4 番 30 号 香林坊ラモーダ 7 階
TEL:076-223-9558　FAX:076-223-9559
E-mail：npo@pref.ishikawa.lg.jp

発行■石川県NPO活動支援センター　〒920-0961　金沢市香林坊2丁目4番30号 香林坊ラモーダ 7階　TEL 076(223)9558　FAX 076(223)9559　Eメール　npo@pref.ishikawa.lg.jp